参考０２

国際原子力発電安全協力推進事業　ロジックモデル

（インプット）

令和元年度

予算
72百万円

（執行額48百万円）
執行率 67%

（アクティビティ）

○ 国際原子力発電安全協力推進事業の概要

・諸外国規制機関との協力を進め、二国間、多国間の枠組を通じて、原子力規制に関する情報収集・発信及び意見交換等を行う。
・アジアを中心とする原子力規制機関が情報を共有するツールであるANSN（Asian Nuclear Safety Network）を活用し、各国情報源を拡大しつつ情報を発信することで、原子力安全の向上に活用する。

○ 具体的な取組

◆ 諸外国原子力規制機関との規制情報交換等

① 多国間の枠組
・国際原子力規制者会議（INRA）
・西欧原子力規制者会議（WENRA）
② 二国間等の枠組
・日米、日仏、日英と欧の二国間情報交換会合
・日中韓原子力安全上級規制者会合（TRM）

◆ 原子力規制情報の収集及び知識の普及

① 国際情報共有のための枠組（ANSN等）へ積極的に参画し、知識の収集・普及を図ると共に、当該取組の効果的な運営等にも貢献する。
② 海外の原子力規制に係る最新情報の収集・発信を行う。

（アウトプット）

○ R1の主な成果

◆ 米国、仏国をはじめとする原子力先進国規制機関との二国間情報交換会合の実施

➢ 原子力先進国規制機関との間で、委員長・委員級・実務者級合わせて20回の二国間情報交換会合を実施し、情報収集・発信に務めた。

◆ INRA／WENRA等の多国間情報交換会議への参加

➢ INRA／WENRAといった原子力先進国メンバーが多数集まる多国間の会議に、委員長・委員級・実務者級それぞれの立場で24回出席し、情報収集・発信に務めた。

◆ 日中韓3国間での会議やアジア等原子力新興国との情報交換会合の実施

➢ アジアを中心とする原子力新興国規制機関との間で、委員級・実務者級の情報交換会合を実施し、情報収集・発信に務めた。

（アウトカム）

・米国、仏国をはじめとする原子力先進国規制機関との二国間情報交換会合の実施や、INRA／WENRAといった原子力先進国の原子力規制者との多国間情報交換会議への参加を通じて、我が国の原子力安全のさらなる継続的向上に必要となる原子力規制に関する最新の知見や情報の収集等を行った。

（得られた成果）
➢ 新検査制度運用に関する知見
➢ クリアランス制度運用に関する情報
➢ 使用済燃料再処理工場の安全審査等に関する情報
➢ 各国規制機関の安全文化に関する活動情報、等

・日中韓3国間での情報交換会合への参加や、ANSNの運営及び個別ワーキンググループへの参加及び情報発信等、その他原子力新興国への知見・情報の提供を通じて、アジア地域をはじめとする世界の原子力安全の向上を目的として、原子力規制に関する我が国の知見等の共有や情報の収集等を行った。

（得られた成果）
➢ 安全規制に関する各国の最新の状況・取組の情報
➢ 指導者育成プログラムや緊急時情報共有マニュアルの共同作成に向けた知見、等

（解決すべき課題）
- 我が国の原子力安全の継続的向上
- アジア地域をはじめとする世界の原子力安全の向上

（政策）
原子力に対する確かな規制を通じた原子力安全の向上により、人と環境を守る

（施策）
諸外国原子力規制機関等との意見交換、情報収集・発信及び意見交換等を通じた、原子力規制の向上